

海外生活レポート

アフガニスタン 6

Norko Dethlefs(紀子・デスレフツ)さん

アフガニスタンのクリスマス

先月の手紙で少しお話ししたように、こちらの12月25日は何も特別なことのないごく普通の日です。そればかりかこちらでは日曜日は週末でもないの、平日どおり仕事もありました。それより数日前、私たち外国人(大人14人)は、私たちの祝祭Eid[=クリスマス]を共に祝ってもらうために、アフガン式のランチパーティーを開いて100人近い現地スタッフを招待し、西暦の過去1年間(こちらの新年は3月21日なのです)の彼らの働きへのお礼をしました。皆で自国から持参したクリスマスの装飾をすべて持ち寄ってオフィスの1階を明るく飾り、3人の博士たちについての物語を全員で聴き、キャロルをダリ語で歌いました! 現地スタッフの人々と礼拝を共にできたことは何よりも大きな感動でしたし、中にはクリスマスの意味についてもっと知りたいという人もいました。

24日の夜は20人ほどの外国人が蠟燭で飾った私たちのオフィスに集まって、キャロルを歌い説教を聴きました。それより少し前、私は2人の日本人女性が日本のNGOから派遣されて12月からヘラートに来てると耳にしたので、すぐにその方たちに電話をかけて礼拝とそのあとのディナーパーティーにお誘いしていました。その一人は、両親にヘラートに派遣されることになったとはどうしても言えなかったので、こちらに着いてからメールで知らせたと打ち明けてくれました! 停電のために口に運んでいるものが何なのかわからないパーティーでしたが、タンダーリ・チキン、チャーハン、野菜炒めという、およそクリスマスらしくなぬメニューでした。とても楽しくて国際色豊かな夕べでした。

25日は眼科医の夫は手術、私は大学の授業があったのですが、遅めの昼食と午後のお茶をチームの皆と共にし、各国の賛美歌を歌ったり、新しいおもちゃをもらった子供たちと遊んだりして過ごしました。

翌日は私も夫もそれぞれの仕事に戻り、何日か後に計画していた私たちの祝祭[クリスマス]の午後のお茶に現地の眼科医たちを招待しました。皆さん、とても温かく応じて下さって、当日は9人のお医者さんといっしょにお茶やコーヒーを飲み、私が焼いたバナナ・マフィンやナツメヤシとくるみのケーキを食べながら本当に心温まるひとときを過ごしました。クリニックではこれまで困難なことが沢山あって辛い思いをいくつもしてきただけに、この集いは私たちにとって本当に特別な意味がありました。プレゼントにいただいたヘラート製の青いガラスの食器も、思い遣りがこもっているうえに、大いに

役立ってもくれています。

電気代は現地人の5倍!

私たちは総じてこちらで歓迎されていることを実感していますが、今後は1日一人あたり1ドルの査証料(ここで働けるといふ優遇措置に対して一人につき年に365ドル)を払わされることになりました。そのうえ、外国人の場合、借家の電気代も現地人の5倍取られます。お店でも、外国人価格で買い物する私たちは良いお客です。現地人が同じものを買うより数倍高いお金を払わされるのですもの! 西洋人がお金持ちだと思われていることは驚くにはあたりませんが、皮肉にも金銭的に一番裕福なNGOである国連は、アフガニスタン政府に支払うべき手数料の類いを免除されています。

日本製と書かれている品物も実は...

日本製品はこちらでは最も優れていると思われていて他国の製品よりも高く売られています。パキスタン経由で入ってくる輸入品には「メイド・イン・ジャパン」のラベルが貼ってあるものが多く、中には日本製でないのに「メイド・イン・ジャパン」のラベルがついているものもあります。先日現地の管理職の人から、買いたいと思っている発電機があるんだけど本当に日本製なのか一緒に来て見てもらえないだろうか頼まれました。日本政府がパキスタンに偽のラベルについて文句を言ったところ、それではお互い様ということで日本製品に「パキスタン製」のラベルを貼っても良いことにしたらどうか、との提案があったと聞きました!!

衝動買いは誰のため?

私はアフガニスタンに来てから、中古品とはいえ、衝動買いでストレス解消してるみたいだと指摘され、なるほどと納得した自分に驚いています。モノなら他の人たちよりずっと沢山持っているのに、って! でも、現地の近所の人たちや学生さんたち、それにこれからは刑務所に拘留中の人たちのためにも役に立つ買い物をすることは楽しいです。女子刑務所で英語の授業を始めるための申請手続きは、もうほとんど終わりました。多くの徒手空拳の女性たちが、今か今かこのプログラムの開始を待っています。その一人で学校の先生だった教養豊かなある女性は夫を殺害したために服役中。長い拘留生活を覚悟しなければなりません。ほかにも家庭内の酷い状況から逃げ出したことを理由に投獄されている女性たちが大勢います。

まだまだ書きたいことはあるのですが、あとは来月に譲りひとまず終わりにします。

新年が皆さんにとって幸せな1年となることをお祈りしています。

愛と感謝を込めて。

世界の食卓から

フィリピン料理



— アドボン バボイ アット マノック — ポークとチキンのマリネード煮込み

材料(4人分)

豚バラ肉(ブロック)	1kg
鶏肉ぶつ切り(もも)	500g
酢	150cc
醤油	100cc
にんにく(つぶす)	2片
ロリエ	2枚
粒黒胡椒(または粗挽き)	

作り方

1. 豚肉は4cm位の角切りにし、鶏肉とともに鍋に入れ、調味料を加え1時間ほど漬けておく。
2. [1]の鍋を火にかけ、沸騰したら弱火にし、肉が柔らかくなるまで煮込む。(肉が柔らかくなるまで必要であれば水を足していく)

国際交流協会だより

財)川崎市国際交流協会と特定非営利活動法人KFVIは2007年2月18日(日)

に、「多文化国際理解教育シンポジウム」を国際交流センター・ホールで開催します。内容は下記の通りです。

日時: 2007年2月18日(日)

第1部	シンポジウム	14:00 ~ 17:00	
	受付	13:30~	参加費 500円
第2部	交流会	17:30 ~ 19:30	
	受付	17:00~	参加費 1000円

場所: 川崎市国際交流センター ホール

申込み: 平成19年1月25日(休)9:30~

電話・FAX・メールで

基調講演

東京学芸大学教授 佐藤 郡衛

外国人市民生活寸劇

交流会(17:30~19:30)

(レセプションルームにて)
世界の民族衣装ファッションショー
ダンス、歌、エスニック料理

編集後記

今回の特集では日本語ボランティアの方たちのお話をうかがいました。勉強や仕事、結婚などで日本で生活している外国の方々...。日本語を勉強している彼等が快適に日本で暮らせることを心から願っています。そのためにも市民との交流を広げていける機会を作っていけたらと思いました。

(相沢明子)

パネルディスカッション

コーディネーター

NPO法人KFV理事長 金 ひいすく

パネリスト

* 総合教育センター	佐藤 公孝
* カリキュラムセンター	松原 康臣
* 鷺沼小学校	松原 康臣
* 川崎市国際交流協会事務局次長	猪瀬 敦
* NPO法人KFV副理事長	中村 ノーマン

川崎市国際交流センター

〒211-0033 川崎市中原区木月祇園町2番2号
TEL 044-435-7000 FAX 044-435-7010
http://www.kan.or.jp/kic/

